

# 茨内水試 わがわが 版 94

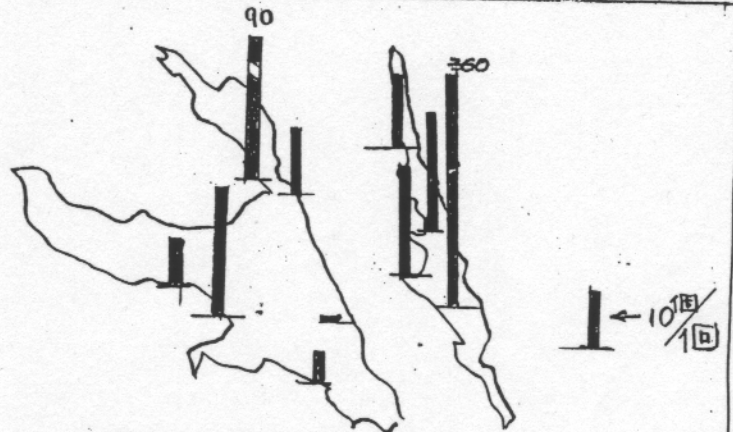
## ワカサギ稚魚の動向

漁業者の皆さんによる人工ふ化が完了してから、はやくも2ヶ月、ワカサギ稚魚の動向が気にかかります。そこで今回は、このことについて述べてみます。

まず、産卵ですが、霞ヶ浦では1回の採集、あたり約100ヶで、昨年や一昨年(1000-2000)に比較するとすくないようです。北浦では、少ないところでも10-20、多いところでは360ヶと、高密度の分布がみられます。稚魚調査は、まだ始まったばかりですが、漁獲量が411トンであった昭和58年よりはやや多い程度ようです。北浦では過去4年にくらべて、今のところ多いようです。

区分	水温(℃)			透明度(m)		
	1月	2月	3月	1月	2月	3月
57年平均	3.9	4.3	7.0	103	122	80
62年	4.7	6.2	8.2	77	82	74
今年	6.0	4.6	7.7	77	98	89

データは、内水試前、毎日観測したものの平均値。



ワカサギの産卵状況

項目	三叉沖		白茨沖	
	今年前年	今年前年	今年前年	今年前年
水温	10.2	6.3	9.8	6.9
透明度(m)	130	135	120	190
酸素系(PPM)	11.1	11.8	12.3	12.0
pH	7.9	8.0	8.7	7.7
COD(PPM)	7.2	6.5	8.0	6.7
チヨウ(C-F-N)	0.68	0.99	0.86	0.83
リン(T-P)	0.039	0.028	0.040	0.021
クロロフィル	31.1	17.3	86.0	20.4

今年：三叉沖、3月23日、白茨沖、3月25日  
前年：三叉沖、3月9日、白茨沖、3月10日、観測

ワカサギ稚魚の生き残りと環境との関係については前号で述べたように、どうも冬季の水温が低いようです。今年の1月は暖冬気味で推移しましたが、2月中旬から下がりはじめ2及び3月の平均水温はそれぞれ4.6および7.7度と過去5年よりも0.5度程高め、62年よりも、やや低めに推移しています。透明度も過去5年に比較して若干低めでしたが、3月に入り上昇、90cmと好転しています。プランクトンは、依然として珪藻のシネドラが多く、藻類のフオルミチウムが混じっています。

新しい場員を紹介します。

場長 大方 昭弘

資源部 川前 政幸

養殖部 山口 安男

転出者

霞ヶ浦北浦水産事務所長 山田 静男

同 指導課長 川又 忠義

水産試験場

増殖部 小沼 洋司

同 高木 英夫

どうぞよろしく、お願い致します。